



THE ROTARY CLUB OF NAGANO WEST

長野西ロータリークラブ

例会 毎週金曜日 12:30～13:30 ホテル国際 2 1
事務局 〒380-0838 長野市県町576 ☎026(235)2800 FAX 026(235)0016
e-mail:nwrc@sweet.ocn.ne.jp

会長／池田 修平 幹事／中野 欣哉 クラブ会報委員長／青木 宏
SAA／小山浩太郎 副 SAA／若麻績信昭



第1306回例会2014年（平成26年）8月29日（金）ガバナー補佐事前訪問例会

ロータリーに輝きを LIGHT UP ROTARY

会長挨拶 池田修平会長

本日は永田ガバナー補佐、竹前ガバナー補佐幹事、廣田ガバナー補佐副幹事の3名の方にお越しいただきました。歓迎申し上げます。

今回は時間が差し迫っていますので、閏月（うるうづき）の話だけをさせていただきます。旧暦では一年間は354日で11日少ないので19年に7回、約2.7年に1か月分閏月として組み入れます。今年の10月24日より閏9月として29日間10月の前に入ることで調整します。ちなみに前回は2012年3月でした。以上会長挨拶とします。



永田正幸ガバナー補佐（須坂 RC） ご挨拶

私は、須坂 RC に所属していますが、親クラブが長野 RC、IAC を提唱しているという点でも貴クラブと共通点があり、西 RC さんとは親しみを覚えます。

今年の R I テーマ「ロータリーに輝きを」は、孔子の教えを紐解いているとのこと、暗いところでじっとしていても何も始まらない、先ず蠟燭をつけて周りを明るくしましょう、そうすると新しい状況が生まれてくる、という意味で、全世界 34,000 の地区の各 RC が輝くと世界の隅々まで明るくなるという願いを込められています。これを受けて中川博司ガバナーの地区方針「明日のために今こそ行動を」の具体的目標の中身は、新会員教育の充実、各種情報の IT 化とクラウドの運用、テレビ放送による広報活動の充実、等を提唱されており、その費用を捻出するためにガバナー月信を従来の半分にして回すというように工夫しています。I M（11月16日須坂迎賓館）の講演、会員セミナーに多数ご参加いただき、研修と親睦が深まることを期待してご挨拶と致します。

例 会 案 内

9月12日 ゲスト卓話 長坂朋美さん
「23歳の挑戦」

* 例会場は2階 弥生の間に変更です

9 / 5 本日のプログラム

会 員 卓 話 布施慶典さん
「海賊とよばれた男（出光佐三）から学んだこと」

- ・綿貫パストガバナーより「日本一の紙問屋をつくりあげた田中作次のチャレンジ人生」という本を皆さんへ寄贈していただきました。
ありがとうございます。
- ・米山梅吉記念館より100円募金の礼状。



- ・例会後13:45～ 補佐との協議会 於：葵の間

出席・ニコBOX報告 竹村利之例会運営委員

8/29(会員55名)出席33名前々回修正出席率89.39%

ゲスト 永田正幸ガバナー補佐

ビジター 竹前利一ガバナー補佐幹事

廣田光彦ガバナー補佐副幹事

☆出席者からガバナー補佐を歓迎1000円ずつ☆

- 青木茂人さん・福澤 寛さん・井上明彦さん
柄澤重登さん・北川原健さん・小林健治さん
小出昭雄さん・小山浩太郎さん・松本克幸さん
村田弘志さん・中村千夏さん・中野欣哉さん
野村泰久さん・大橋東二郎さん・斎藤 泉さん
関 幸博さん・高橋英司さん・高井新太郎さん
竹村利之さん・竹内喜宜さん・瀧澤 聡さん
轟 修平さん・若麻績信昭さん・綿貫隆夫さん
山口和彦さん・山本博昭さん
- ・伊東義次さん☆永田ガバナー補佐ようこそ！
☆大橋先生いろいろとお世話になります。
- ・粕尾正康さん☆先週の卓話の時にニコBOXへ
入れねばならないのに遅れてすみません。遊び
の話でしたので皆様お昼寝をせずにご清聴あり
がとうございました。
- ・大橋東二郎さん☆本日は卓話をいたします。よ
ろしく。☆伊東さん、これからお利口に過ごし
て次の治療にのぞみましょう。
- ・池田修平会長☆永田ガバナー補佐、竹前さん、
廣田さん、ようこそおいで下さいました。

・合 計 38,000円 ・累 計 149,625円

会 員 卓 話 大 橋 東 二 郎 さ ん

「ピロリ菌あれこれ」

最近では、この名前がおなじみになりましたが、正式にはヘリコバクター・ピロリです。某新聞の記者が自分が初めて使ってからこの名前が定着したと記事にしておりました。今臨床の現場では多くの方が心配されて外来を訪れます。昨年2月にピロリ菌感染性胃炎に対して除菌治療が保険適応拡大になり、TV、新聞に取り上げられることが多かったことも一因です。それまでは胃、十二指腸潰瘍その他限られた疾患が適応でした。わが国には大変多くの慢性胃炎患者がいて、しかもピロリ菌感染が高い比率を占めるというのに、なぜでしょうか。ご存知の方もおいでと思いますが、この菌はWHO（世界保健機関）が確実な発がん物質と認めています。日本には胃がんが多く、その発生の有力原因疾患とされる慢性胃炎が大変多いというので、学会では早くから本菌感染胃炎に対する除菌治療を呼びかけていました。財政的問題が、適応拡大を妨げていたのでしょう。胃がん発生者を減らすためにはこれは失われた10年間であると叫ぶ声が多いのです。



ではピロリ菌についてお話をします。従来胃の中は強い酸性で細菌は生息できないとされてきました。そのため潰瘍疾患の発生原因はストレス、薬剤や不摂生とされてきました。以前から胃には細菌がいるという説があり、論争がありました。しかし前記の理由から否定されてきました。1983年オーストラリアのウオーレンとマーシャルは胃炎患者の胃粘膜にらせん形の細菌がいること、その菌が胃炎を発生させることを報告しました。二人は検体を培養していましたが、なかなかうまくいかないとき、イースターの休暇の間観察を怠ったのです。その偶然が発見につながり、後にノーベル賞受賞しました。皆様方も適度なゆとりを取りながらお仕事を続けることが立派な業績につながるのではないかとお勧めする次第です。発見者たちは自らもこの菌による被験者となって証明しています。この後ピロリ菌についての研究は飛躍的に発展し、潰瘍、胃がんの治療は画期的な変化を遂げます。

本日お配りしたプリントに具体的な事柄が記載されておりますのでどうぞお役立て下さい。